

## 事例 14

# 地域に親しまれ歴史ある用水路の保全

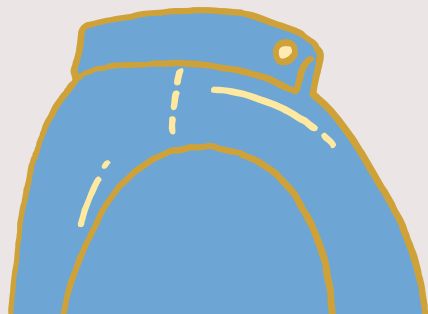
～ 基幹水利施設補修事業「高瀬川地区」～

〔 出雲市・大社町 〕



### 【地区の概要】

事業年度 平成4年度～平成11年度  
地区名 高瀬川  
高瀬川上下(かみしも)  
事業内容 三面コンクリート水路  
施工延長 L=8.17km  
川幅4.7m～1.5m  
高さ0.75m  
総事業費 1,328百万円



高瀬川は、出雲市大津町の来原岩樋から大社町荒木地区に至る、約8kmの農業用水路であり、大楯七兵衛により開削されました。(1687年完成)

本来は荒木地区のかんがいを目的とした用水路ですが、雲南地方の物資を高瀬舟で運び、大社湾から大阪方面への積み出しにも利用されるなど“多面的機能”を発揮した農業水利施設でありました。

昭和24年から始まった出雲地区県営かんがい排水事業により、二面或いは三面コンクリート水路として8.85kmが整備され、昭和35年に完成しました。

その後、沿線農地の宅地化・混住化が進展し、受益農地が減少することになりましたが、市街地を縦断するこの高瀬川は、農業用水としての役割だけでなく、防火用水や生活用水として沿線住民の生活に潤いを与え、気軽に水に親しむことができる“清流”として、地域には無くてはならない水資源として利用されてきました。

しかし、完成後三十年を迎えるようになると、老朽化に伴い水路壁の破損や漏水が目立つようになり、毎年のように補修が必要になってきました。そのため、県営基幹水利施設補修事業により全面的な水路改修を行い、景観にも配慮した水路壁面(石積み状)にするなど、地域に密着した農業用水路として生まれ変わりました。

